



TITLE:

和歌山県田辺湾から採集されたクマドリ(魚類, モンガラカワハギ科)

AUTHOR(S):

田名瀬, 英朋; 久保田, 信

---

CITATION:

田名瀬, 英朋 ...[et al]. 和歌山県田辺湾から採集されたクマドリ(魚類, モンガラカワハギ科). 南紀生物 2004, 46(1): 65-66

ISSUE DATE:

2004-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188302>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

# 和歌山県田辺湾から採集されたクマドリ (魚類, モンガラカワハギ科)

田名瀬英朋\*・久保田 信\*

Hidetomo TANASE and Shin KUBOTA: Record of the oranges-triped  
triggerfish *Balistapus undulatus* (Pisces, Balistidae), from Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

## はじめに

モンガラカワハギ科の一種であるクマドリ *Balistapus undulatus* PARK の出現海域は、紀伊半島以南のインド・西太平洋の温・熱帯海域である (林, 2000)。

本州における本種の分布は、荒賀・田名瀬 (1966) による潜水観察によって初めて確認された。しかし、それ以降はわが国における本種の生息記録が南西諸島以外からはほとんど無く、採集標本についても南西諸島以外では高知県から採集された1個体 (体長245mm) のみであった (蒲原, 1936; 田中・阿部, 1955)。SCUBAなどによる潜水観察が活発になった昨今でも、高知県柏島 (平田ほか, 1996)、和歌山県 (桑村, 1976; 近藤, 1990; 福田, 2001)、伊豆諸島の八丈島 (古瀬ほか, 1996) から少数個体の目視や水中写真の撮影報告があるにすぎない。

筆者らは、和歌山県西牟婁郡白浜町周辺海域において潜水調査や漁港の漁獲物調査を実施し、本種の出現状況

に注意を払っていたが、2004年の冬季、田辺湾南西部の海岸に漂着していた1個体を入手し、直接に確認・記録する機会を得たので報告する。

## 個体の記録

採集年月日: 2004年1月30日

採集場所: 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海

京都大学瀬戸臨海実験所北浜

採集個体数: 1 (図1)

大きさ: 全長51.3mm, 体長41.6mm, 体幅7.2mm

体側面の模様: 暗褐色の地色に多数の明瞭な黄褐色の色帯があり、その色帯は背面部から臀鰭方向に斜行している。尾柄部には黒色斑点がある。

その他: 入手時の個体の状態は、外傷や腐敗臭のない新鮮な個体であったが、若干乾燥しており実際の漂着は1月28日か29日の可能性が高い。

## 考察

本種の体長は約25cmに達する (田中・阿部, 1955)。今回、記録する個体は、体長41.6mmで蒲原標本 (体長245mm) や桑村 (1976) が瀬戸臨海実験所北浜沖から報告した1個体 (1975年11月に目測, 全長6cm) よりも小型であった。

田辺湾では2004年1月中旬から2月中旬にかけて海水温の低下が続いており、少数ではあるが熱帯性魚類の漂着があり、近縁種のツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopterum*, コンゴウフグ *Lactoria cornuta*, シマウミスズメ *Lactoria fornasini*, クロハコフグ *Ostracion meleagris meleagris*, ハナキンチャクフグ *Canthigaster valentini* の漂着を確認している。こうした最寒冷期における熱帯性魚類の漂着例は、記録されているものだけでも過去約40年間で4回起こっていることから (田名瀬・樫山, 1991)、本個体は海水温度の低下により衰弱・死亡した後、北西風によって海岸に漂着した可能性が高い。

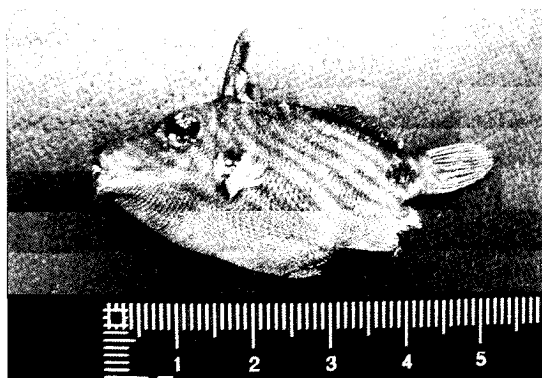


図1 和歌山県白浜におけるクマドリ (未成魚) の漂着個体

Fig.1. A dead, stranded, immature specimen of *Balistapus undulatus* in Shirahama, Wakayama Prefecture.

\* 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町)  
Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Seto Marine Biological Laboratory Shirahama, Nishimuro,  
Wakayama 649-2211, Japan

和歌山県白浜海域では荒賀・田名瀬（1966）に続く桑村（1976）による本種の生息確認以後の2004年まで29年間の空白期間があるが、この期間中、潜水調査、寒波による魚類の寒冷死亡調査、近隣漁港の底刺網調査を実施していたにもかかわらず、全く出現していない。このような長期の空白期間は、クロハコフグの例と似ており（田名瀬・久保田，2002），本種も黒潮の流れによって田辺湾周辺海域まで運ばれる稚仔魚の絶対数が少ないことを反映しているものと思われる。

今後、黒潮の影響が及ぶ関東以南の沿岸域において、出現頻度、生息状況、個体の大きさなど、分布の北限域における本種の生息状況の解明を期待したい。

### 引用文献

- 荒賀忠一・田名瀬英朋. 1966：和歌山県の浅海魚類. 和歌山県海中公園学術調査報告, 27, 81-95, 日本自然保護協会.
- 林 公義. 2000：モンガラカワハギ科. *in* 中坊徹次編著, 日本産魚類検索 第二版 II, 1396-1402. 東海大学出版会, 東京.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996：高知県柏島の魚類相. 高知大学海洋生物教育研究センター, 16, 1-177.
- 福田照雄. 2001：海中展望塔に集まる魚（24）2000年1月～12月. 南紀生物, 30（3）, 14-15.
- 古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊池 健. 1996：魚類写真資料データベース（KPM-NR）に登録された水中写真に基づく八丈島産魚類目録. 神奈川自然誌資料, 17, 49-62.
- 蒲原稔治. 1936：土佐産紋殻皮剥科の魚類に就て. 植物及動物, 4（10）, 73-79.
- 近藤俊太郎. 1990：センター前でみられるモンガラカワハギの仲間. マリンバビロン, 19（12）, 70.
- 桑村哲生. 1976：白浜付近の枝状サンゴ（ミドリイシ類）の枝間にみられる魚類の季節的消長. 南紀生物, 18（1）, 15-22.
- 田中茂穂・阿部宗明. 1955：図説有用魚類千種. 294pp. 森北出版, 東京.
- 田名瀬英朋・檜山嘉郎. 1991：瀬戸臨海実験所北部海岸における1991年冬季の凍死魚類. 臨海・臨湖, 9, 11-14.
- 田名瀬英朋・久保田 信. 2002：和歌山県田辺湾から採集された稀種クロハコフグ（ハコフグ科, 魚類）. 南紀生物, 44（2）, 149-150.